



こどもたちの園生活は、これまで、コロナ対策として^{おうち}窮屈な面が色々ありましたか、先月の後半から徐々に戻してきました。

こどもたちのあそび表情を観ていると、その成果が読みとれます。

近い内に100パーセント戻ること願っております。

10月もあと10日ほど、こどもたちは毎日秋の園生活を楽しんでおります。

■自給の恒例のドッチボール大会が、来週月曜日に開催されます。

こどもが幼い内は、ルールのあるあそびゲームはむずかしいですが、年長児ともなると、ルールを理解できて対応できます。

今年度に入って最初の内は、実践をしながらルールの説明をしましたが、個人差があって徹底できなくてスタッフたちが笑いこける場面も沢山ありました。

日を重ねる毎に理解が進み、技能的にも向上してきて、一人ひとりの取り組む時の表情もしげんになってきました。

応援してあげてください！

クラス対抗のお母さん同士のゲームはコロナ対策で行いません。^{残念です!}
“女の戦い”

■こどもたちが楽しみにしている、大好きな「ハロウィン」がやって来ます。

こどもたちの期待に応えて(10月31日(月))にハロウィンパーティを行います。



こどもたちのよろこびを作ってあげたいので、豆頭の上にひとつの仮装でもいいてです。

この日は、朝お家^{うち}を出る時からハロウィンスタイルで登園してください。

迎えるスタッフたちも、どんな格好しているのかな!?



(心の育ちシリーズ)

言葉が人生を作っていく

その日のハンバーガーショップは混んでいた。木下さんは列の三番目に並んでいた。バイトの女の子が「店内でお召上がりですか？ お持ち帰りですか？」と聞いている。木下さんが何をたべようかと考えていると、前の方が騒がしいことに気がついた。一番前の男性の声が怒鳴り声になったからだ。「何しんねん、トロイんど、お前はどようエエわ!!」と怒りをあらわにして商品の入った紙袋を奪い取るようにして店を出て行った。バイトの子はそのうしろ姿に「申しわけありませんでした、すみませんでした」と何度も頭を下げていた。一瞬にして店内の空気が^{ツギ}刺々しくなった。

2番目に並んでいたおじいちゃんだ。バイトの子は今にも泣きそうな顔だったが「店内で召上がりですか？」と何事もなくたかのように接客した。おじいちゃんは静かな声で言った。「お姉ちゃん、エライなあ。世の中にはさっきの人のように自分の思い通りにならんかったら怒鳴り散らす人がいる。なんか急いどたんぞろ。あんなこと言われてあなたの心はズタズタのはすや、にも拘らず次に並んでるわしに笑顔で接客してくれた。ありがとう! あ、コーヒーひとつ」

その言葉を聞いたとたんせきを切ったようにバイトの子の目から涙が溢れ出した。ワンワン声を上げて泣き出した。しばらく涙が止まらなかった。横のレジに並んでいた中年の女性客が声をかけた。「あなた、本当にいい仕事してるわよ!!」

^{ツギ}刺々しかった店内の雰囲気が一瞬にして和らいだ。

言葉なんだなあと思った。何の関係もない間柄で、ただ一言で一生忘れられない人になる。言葉には言語としてだけでなく何かすごい力があるんだと思う。そんな言葉を発する人になりたいものである。